

鉄骨工事 Q&A	高力ボルト接合	座屈拘束型ブレース	制定	2011年7月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. K形の座屈拘束型ブレースのフレームとの接合手順に決まりは無いのか？

A.

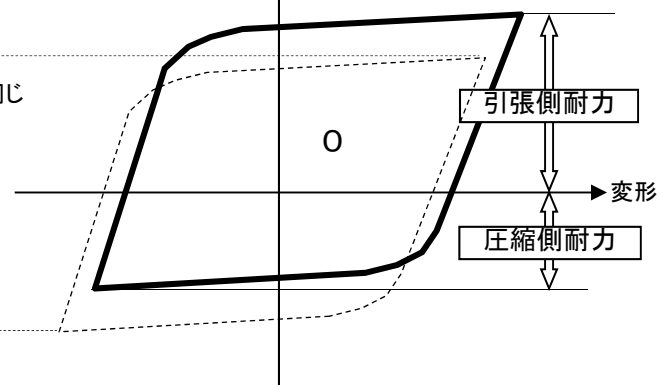
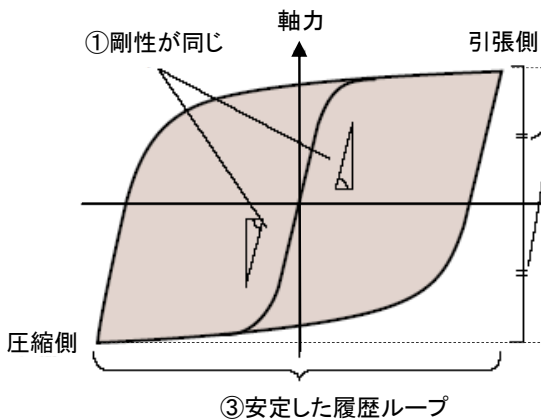
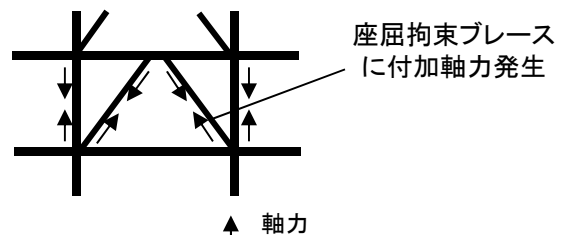
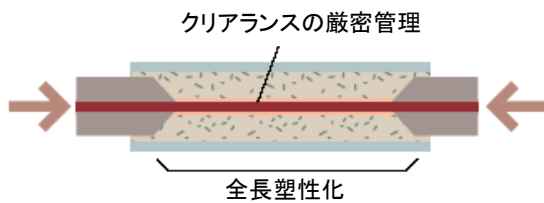
座屈拘束型ブレースは、地震時に変形することによりエネルギーを吸収する構造になっています。建方時に本締めして取付けた場合は、鉄骨自重や床コンクリートの打設荷重によりブレースが荷重を負担し、構造設計で想定している性能がフルに発揮できない恐れが生じます。このため、床コンクリート打設後に本締めして取り付ける方法が一般的ですが、耐震上重要な部位ですので設計者からの指示を仰いでください。

座屈拘束型ブレースの性能確保

例として、アンボンドブレース※の場合の履歴特性（設計で想定している部材としての性能）を以下に示します。

建方時に本締めを行った場合、鉄骨自重や床スラブの打設により座屈拘束ブレースが付加軸力を負担することにより、履歴ループの引張・圧縮側の耐力が均等にならない

■アンボンドブレース



設計で想定している履歴ループ

引張耐力 = 圧縮耐力



建方時に座屈拘束ブレースを本締め・床スラブ打設した場合の履歴ループ

引張耐力 > 圧縮耐力

※アンボンドブレースは、日鉄エンジニアリング(株)の製品名です